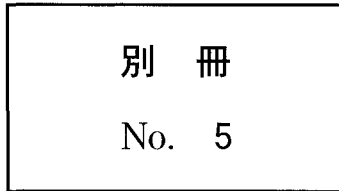


次の文により 21、22 の問いに答えよ。

55 歳の男性。3 年前からろれつが回らず歩行が不安定で介助が必要であり、起き上がる
とめまいが起こる。上肢の測定障害のため ADL が制限されている。頭部 MRI (別冊 No. 5)
を別に示す。



21 萎縮が認められる部位はどれか。2 つ選べ。

1. 脳 梁
2. 小 脳
3. 後頭葉
4. 帯状回
5. 脳幹部

22 この患者に対する適切な治療計画はどれか。

1. 四つ這い訓練
2. 主動筋と拮抗筋との協調運動訓練
3. 反動を利用した立ち上がり訓練
4. ロフトランド杖による歩行訓練
5. 改造自動車を利用した移動の指導

23 19歳の男性。オートバイ事故による頭部外傷で入院加療中。受傷後1か月。JCS(Japan coma scale)は1点。右上下肢はよく動かすが、左上下肢の筋緊張は亢進し、上肢屈曲位、下肢伸展位の姿勢をとることが多い。座位保持は可能であるが、体幹の動揺がみられる。

この時期の理学療法で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 臥位での右上下肢のリラクセーション
2. 臥位での左上肢のFrenkel体操
3. 座位での左下肢筋の持続伸張
4. 立位でのバランス練習
5. 階段を降りる練習

次の文により 24、25 の問いに答えよ。

40 歳の男性。Charcot-Marie-Tooth 病と診断され、最近跛行を呈するようになった。リハビリテーション科を受診し理学療法が開始された。

24 この患者にみられるのはどれか。

1. 脊柱側弯変形
2. 股関節屈曲制限
3. 膝関節屈曲拘縮
4. 腓腹筋仮性肥大
5. 下垂足

25 この患者に使用する装具はどれか。

1. 徳大式ばね付装具
2. 長下肢装具
3. 膝固定装具
4. 短下肢装具
5. 中足骨パッド

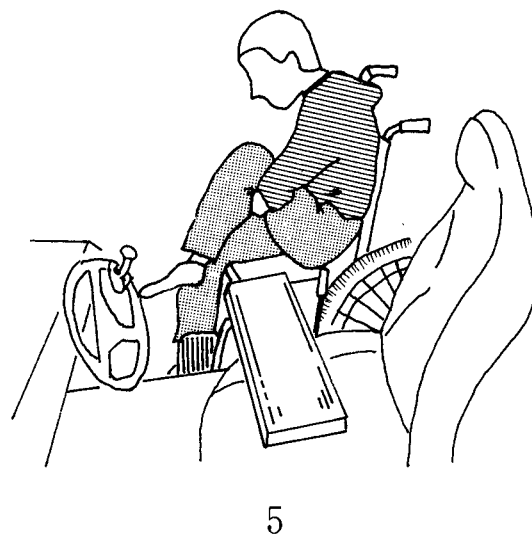
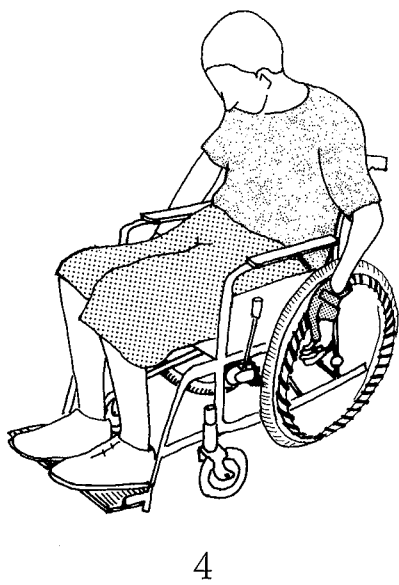
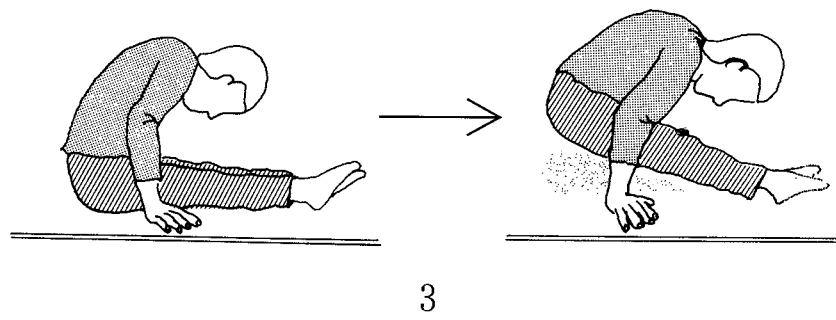
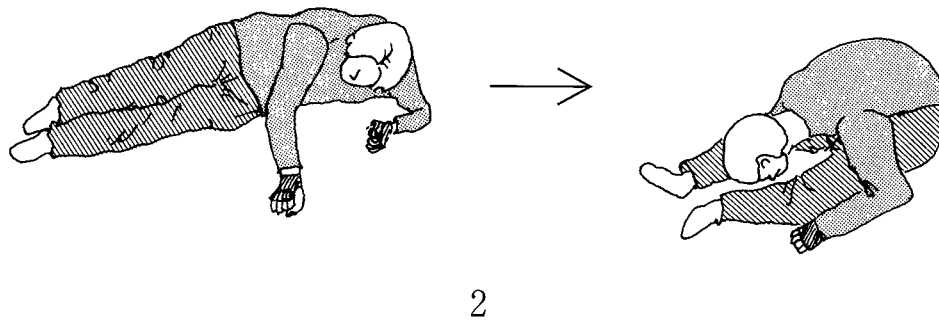
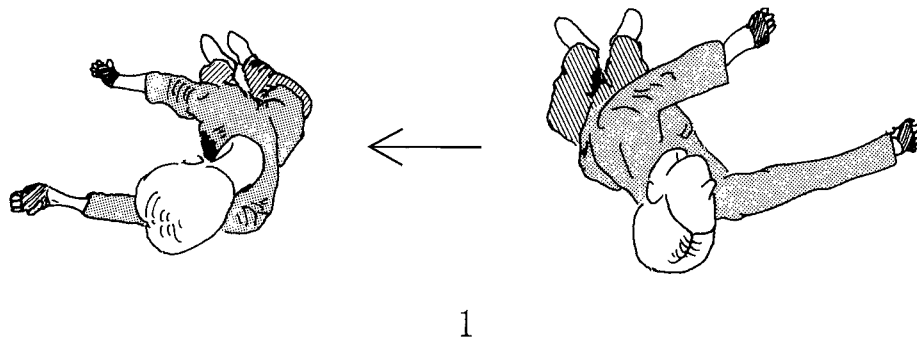
次の文により 26、27 の問いに答えよ。

25 歳の男性。登山で滑落し頸髄完全損傷。Daniels らの徒手筋力テストで左右とも三角筋 5、上腕二頭筋 5、長橈側手根伸筋 4、上腕三頭筋 1、手指屈筋 0、体幹筋 0、下肢筋 0 である。

26 この患者の機能残存レベルはどれか。

1. C 5
2. C 6
3. C 7
4. C 8
5. T 1

27 この患者の生活動作で誤っているのはどれか。



次の文により 28、29 の問いに答えよ。

12歳の女兒。ミニバスケットボールの練習を始めてから、右膝のやや遠位部に疼痛と腫脹とが出現したため来院した。症状は運動後に悪化し、安静で軽快する。エックス線写真(別冊No. 6)を別に示す。

別 冊 No. 6

28 認められるのはどれか。

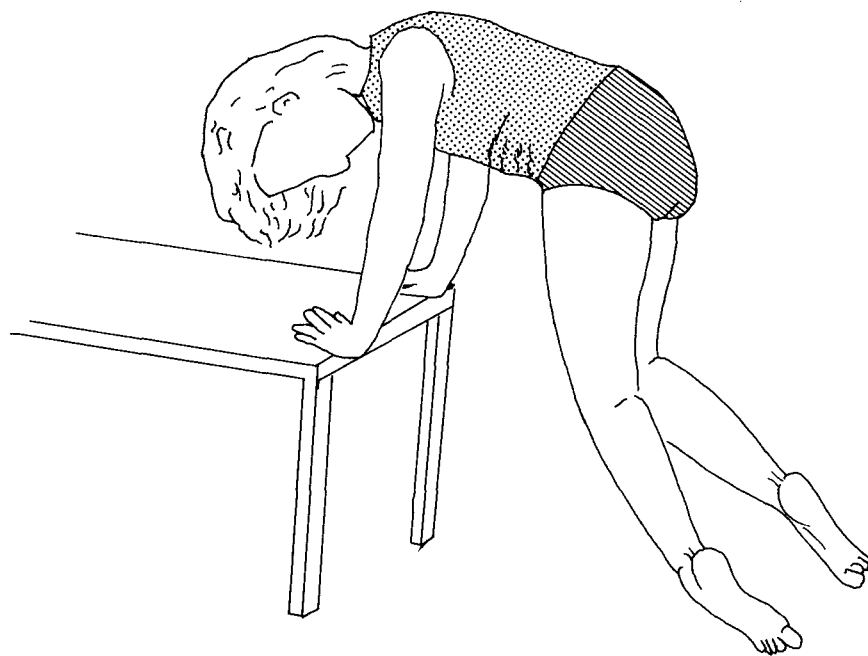
1. 大腿骨遠位骨幹端部の骨膜反応
2. 大腿骨顆部の骨硬化
3. 膝蓋骨の骨棘形成
4. 脛骨顆間隆起の尖鋭化
5. 脛骨粗面部骨端の不整

29 この患者の理学療法で適切でないのはどれか。

1. 膝サポーターの装着
2. 大腿四頭筋のストレッチ
3. 疼痛部のアイスマッサージ
4. スクワットによる下肢筋力訓練
5. ハムストリングスのストレッチ

30 10歳の女兒。痙直型両麻痺。移動には四つ這い、歩行器での歩行および車椅子自走を併用している。この女兒が立ち上がろうとして図のような姿勢になった。

原因として考えられるのはどれか。



1. 緊張性迷路反射の残存
2. 膝関節伸展可動域の低下
3. 下肢の左右分離運動困難
4. 上肢の屈曲共同運動の出現
5. 緊張性対称性頸反射の残存

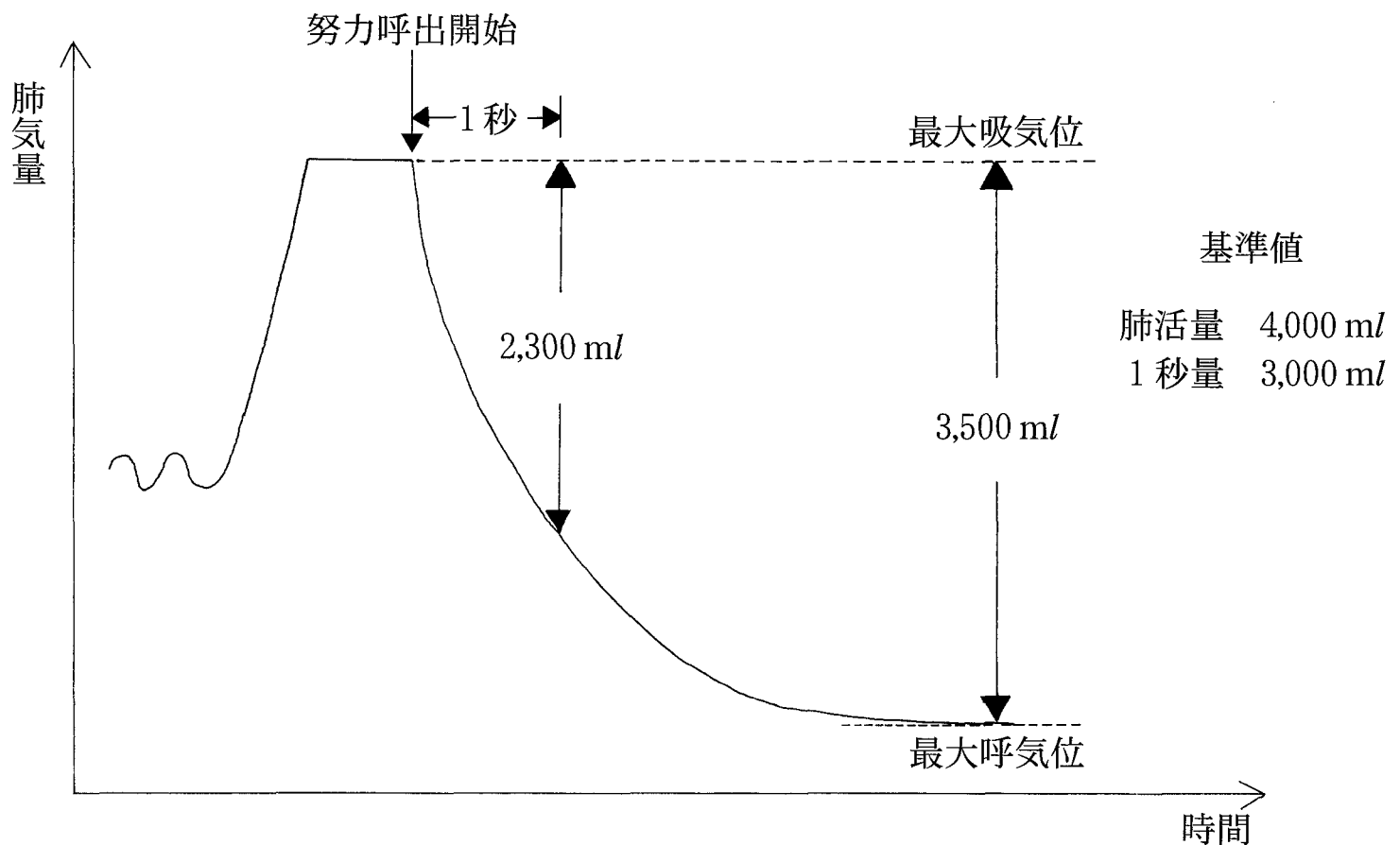
31 1歳2か月の男児。6か月健康診査で運動発達遅滞を指摘され、地域の療育センターを紹介された。痙直型両麻痺と診断され、週1回の外来理学療法が開始された。現在、首が座り上肢を支持して数秒間のみ円背姿勢で床座位保持が可能となった。

この時期のホームプログラムとして適切なのはどれか。

1. 下肢の保護伸展反応の促通
2. 上肢の他動的可動域訓練
3. 腹臥位での体幹伸展運動
4. 四つ這い位保持訓練
5. 介助歩行

次の文により 32、33 の問いに答えよ。

45 歳の男性。息切れで階段を昇れなくなったため受診した。スパイログラムで図のような計測値と努力呼出曲線とを得た。



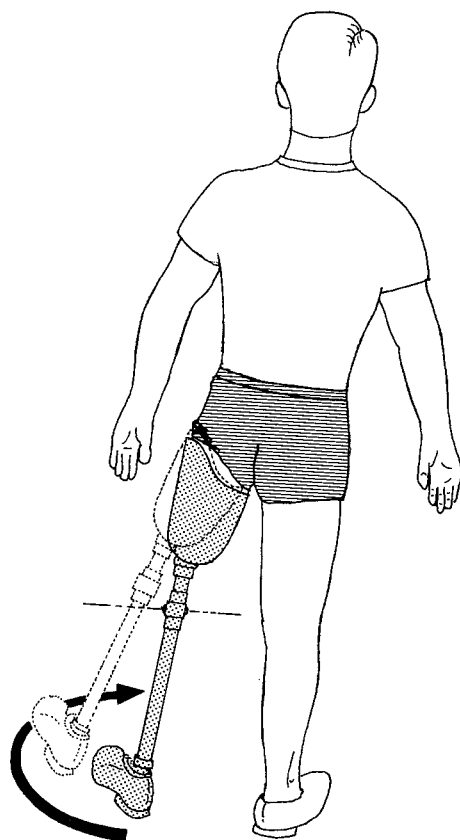
32 この患者の1秒率で最も近いのはどれか。

1. 88 %
2. 83 %
3. 70 %
4. 66 %
5. 58 %

33 この患者の呼吸理学療法の目的はどれか。

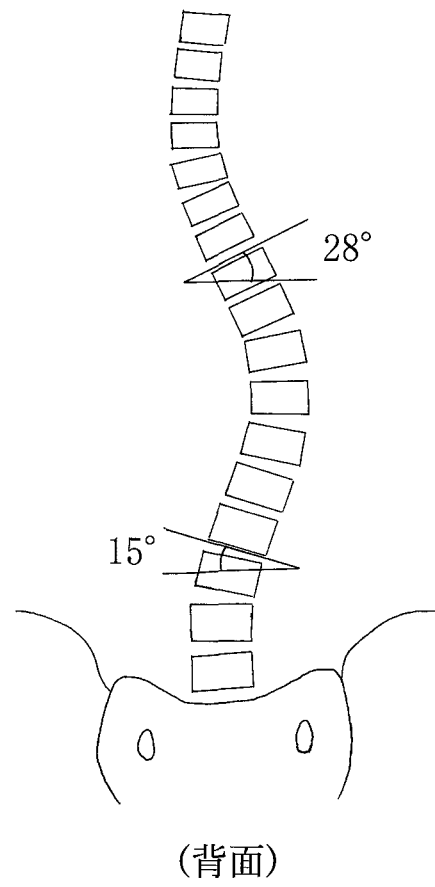
1. 胸式呼吸による肺活量の改善
2. 有酸素運動による残気量の減少
3. 部分呼吸法による努力性肺活量の増加
4. 口すぼめ呼吸による機能的残気量の減少
5. 胸郭柔軟性運動による拘束性換気障害の改善

- 34 大腿義足を装着した患者の歩行時に図のような現象が観察された。
原因はどれか。



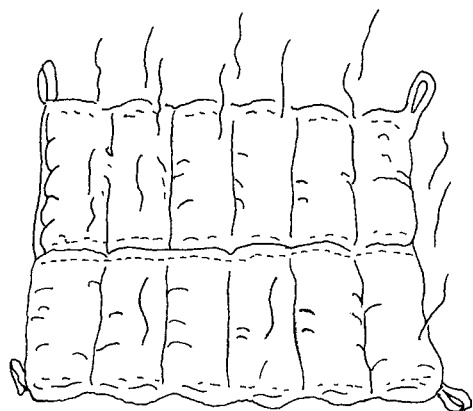
1. 義足が長すぎる。
2. 後方バンパーが硬すぎる。
3. 切断側の股関節外転筋力が不足している。
4. ソケットに対して膝継手が内旋している。
5. ソケットの初期屈曲角度が不足している。

35 図のような側弯患者で正しいのはどれか。

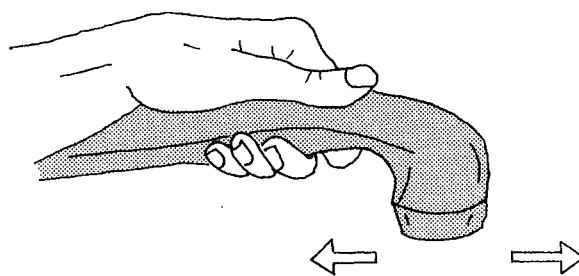


1. 左肩甲骨が隆起する。
2. Cobb 角は 13° である。
3. 装具療法の適応はない。
4. 体幹の前屈運動が制限される。
5. 側弯部の脊柱は椎体が左へ回旋する。

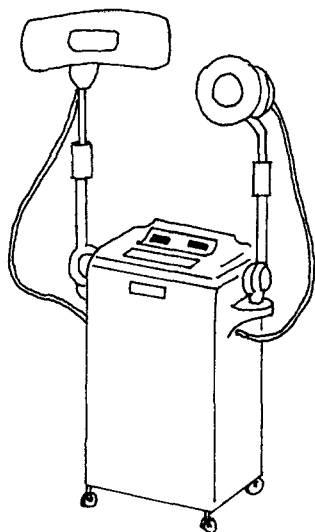
36 変形性膝関節症で人工膝関節置換術後6週経過。膝関節屈曲拘縮と運動痛とがある。
物理療法で適切でないのはどれか。



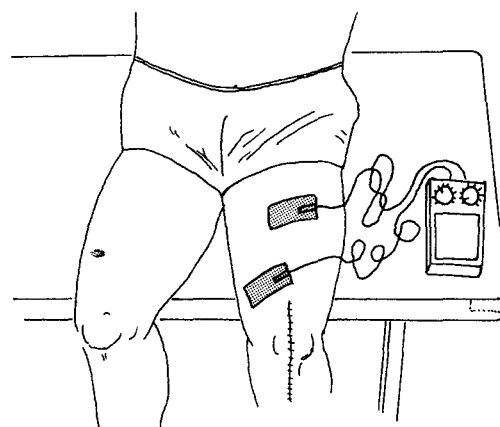
1



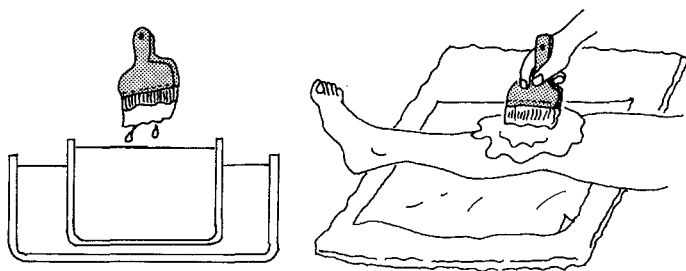
2



3

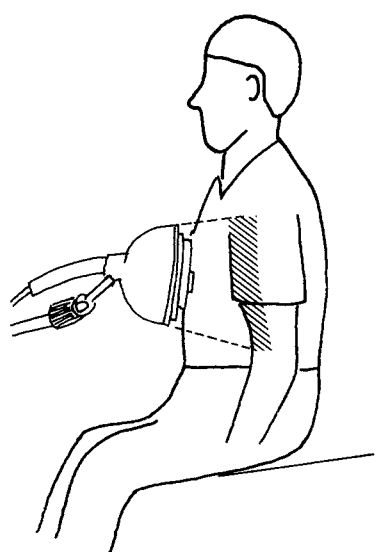


4

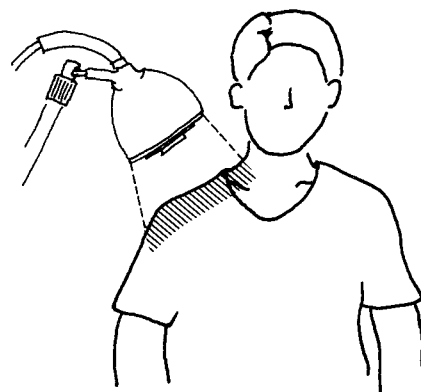


5

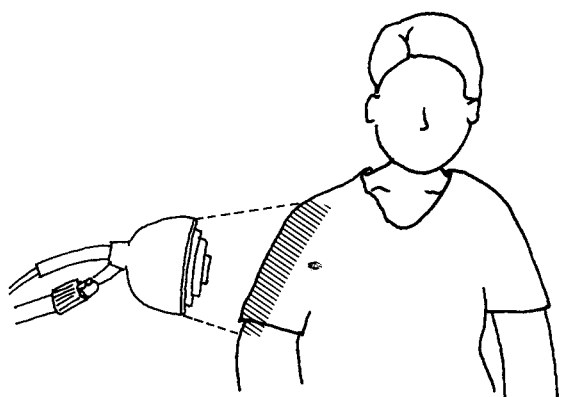
37 極超短波療法における照射方法で誤っているのはどれか。



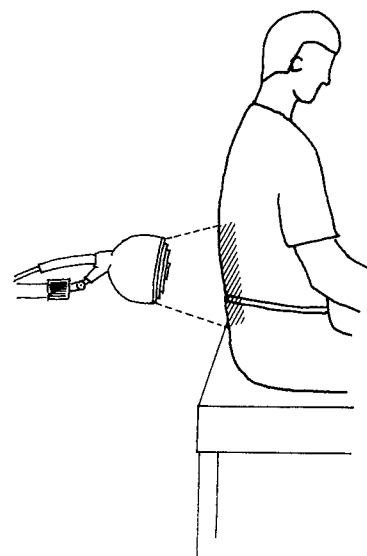
1



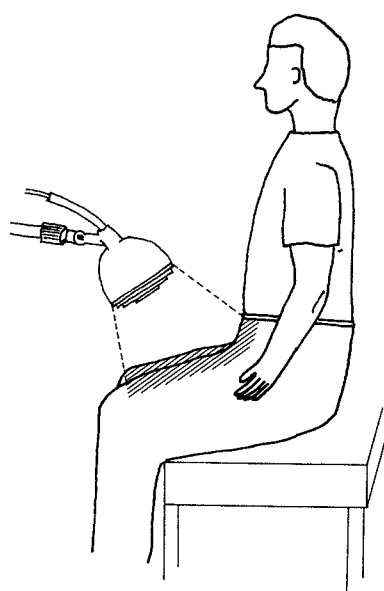
2



3

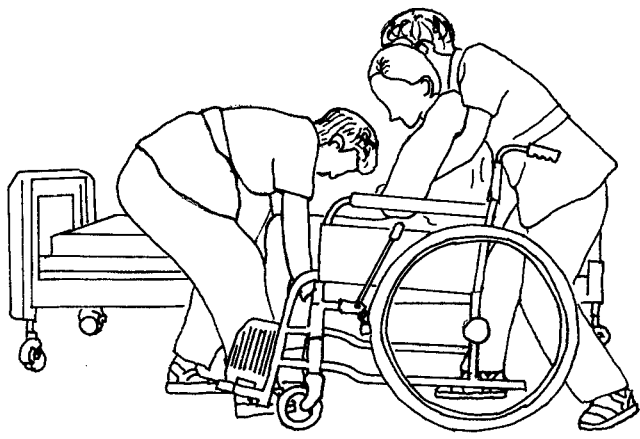


4

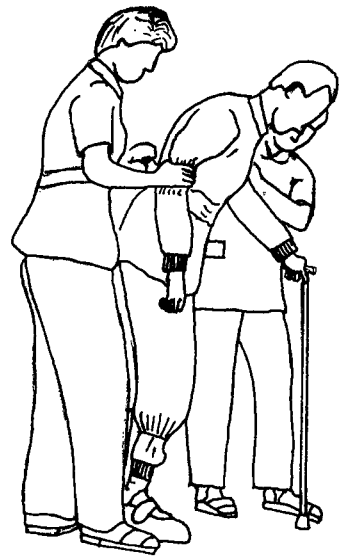


5

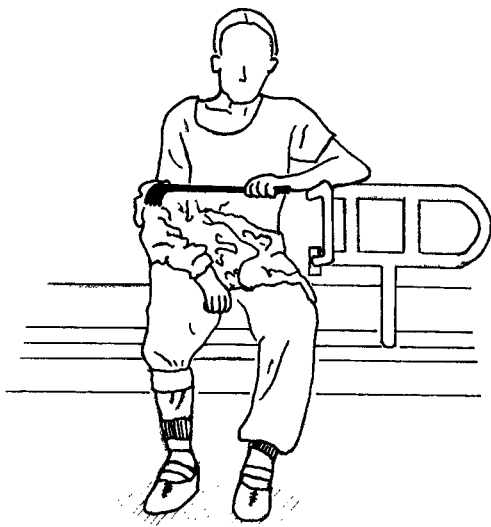
38 機能的自立度評価法(FIM)の得点で正しいのはどれか。



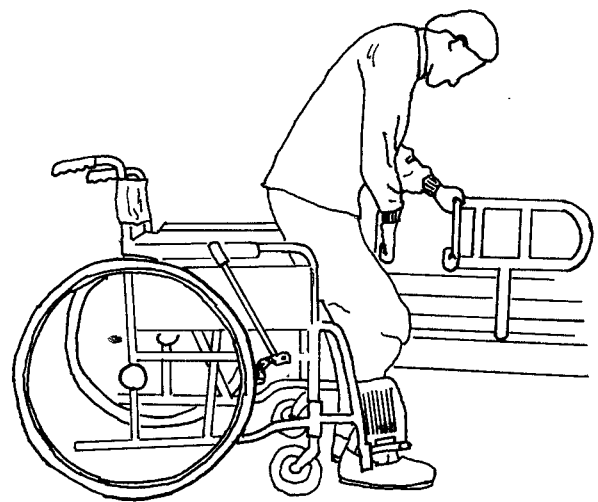
1. 2点



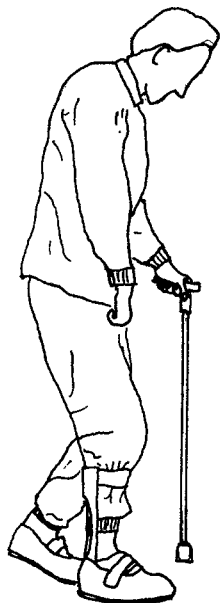
2. 3点



3. 4点

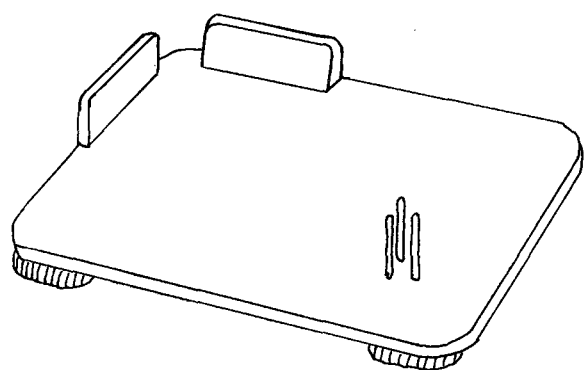


4. 5点

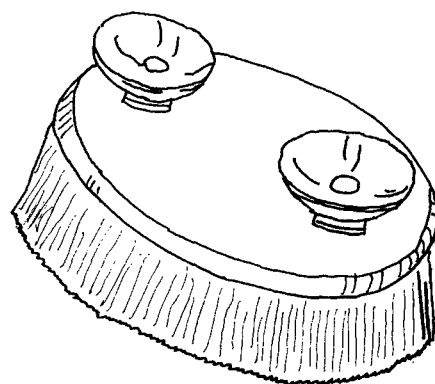


5. 6点

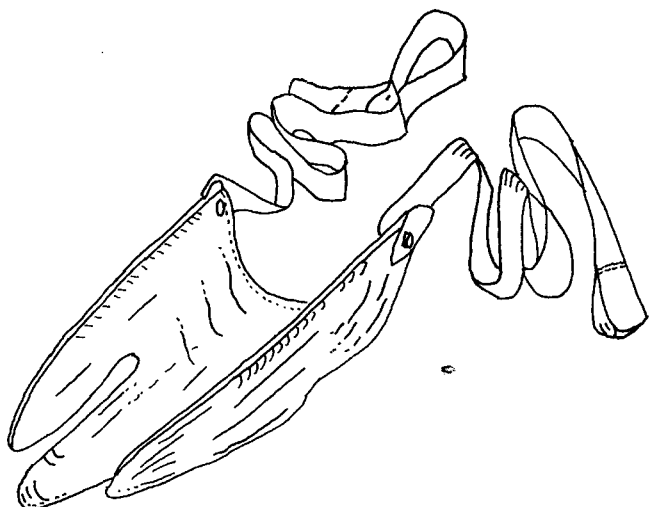
39 片麻痺患者の自助具として適切でないのはどれか。



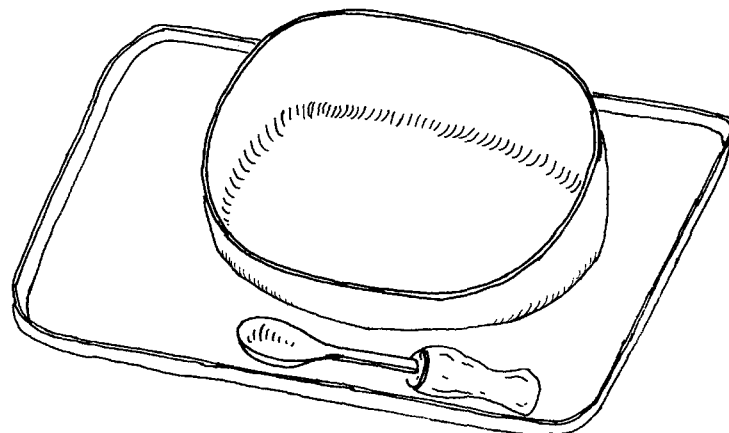
1



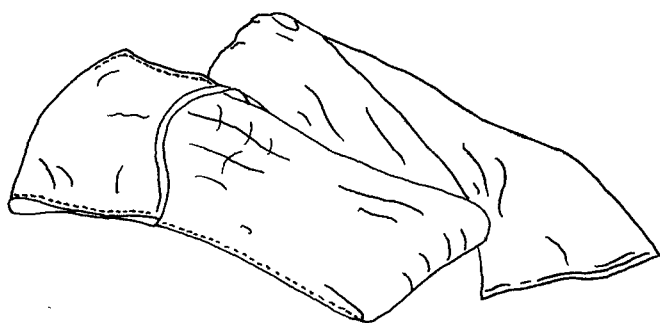
2



3

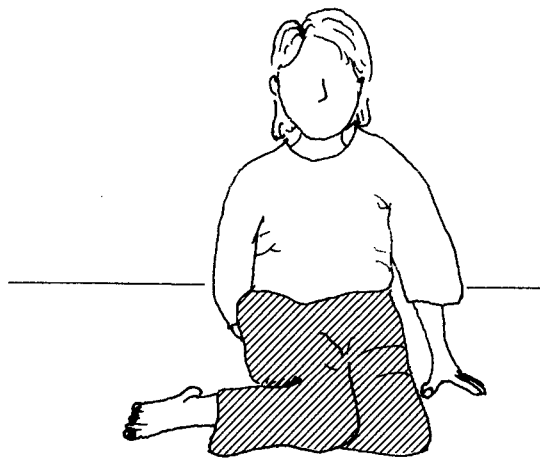


4

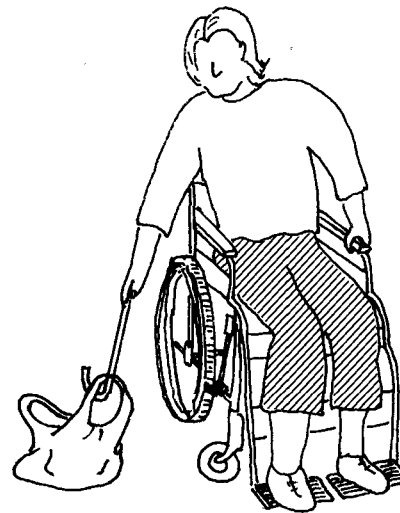


5

40 右変形性股関節症で人工股関節置換術を受けている。
この患者に対する指導で適切なのはどれか。2つ選べ。



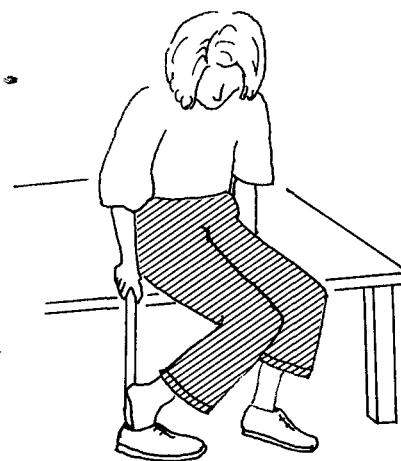
1



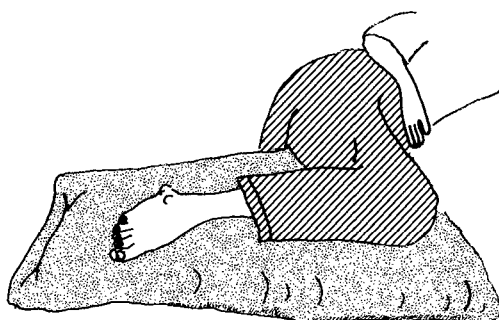
2



3



4



5

41 Daniels らの徒手筋力テストを座位で行うのはどれか。2つ選べ。

1. 肩関節水平外転の段階 2
2. 肩関節水平内転の段階 3
3. 肘関節屈曲の段階 1
4. 肘関節伸展の段階 5
5. 膝関節伸展の段階 4

42 Daniels らの徒手筋力テストでみられる代償運動と筋との組合せで正しいのはどれか。
2つ選べ。

1. 肘関節屈曲——肘筋
2. 手関節掌屈——浅指屈筋
3. 股関節屈曲——大腿二頭筋
4. 膝関節伸展——大腿筋膜張筋
5. 足関節背屈——後脛骨筋

43 Daniels らの徒手筋力テストで正しいのはどれか。

1. 股関節伸展筋力 4 は股関節伸展 30° の抵抗値で求める。
2. 股関節屈曲筋力 3 の運動範囲は $0^{\circ} \sim 145^{\circ}$ である。
3. 股関節内転筋力 4 の非テスト側下肢は 45° 外転させる。
4. 大腿筋膜張筋筋力 3 の運動範囲は外転 30° あれば良い。
5. ハムストリングス筋力 5 は膝関節屈曲 120° の抵抗値で求める。

44 関節可動域測定法(日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会基準による)で
距離測定の規定がないのはどれか。

1. 母指対立
2. 手指外転
3. 手指屈曲
4. 肩甲帯挙上
5. 胸腰部屈曲

45 関節可動域測定法(日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会基準による)で

基本軸の骨指標に肩峰が含まれないのはどれか。

1. 肩甲帯屈曲
2. 肩関節屈曲
3. 肩関節外転
4. 肩関節外旋
5. 肩関節水平屈曲

46 関節可動域測定法(日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会基準による)にお

ける測定部位と基本軸との組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 股関節外転———両側の上前腸骨棘を結ぶ線
2. 股関節外旋———両側の腸骨稜を結ぶ線
3. 胸腰部屈曲———仙骨後面
4. 胸腰部回旋———両側の上後腸骨棘を結ぶ線
5. 胸腰部側屈———両側の下後腸骨棘を結ぶ線

47 関節可動域が制限を受けるのはどれか。

1. 手関節掌屈位での手指伸展
2. 肘関節屈曲位での手関節背屈
3. 膝関節伸展位での股関節屈曲
4. 膝関節屈曲位での足関節背屈
5. 足関節背屈位での足指屈曲

48 上肢での血圧測定で正しいのはどれか。

1. 圧迫帯は肘窩部に設置する。
2. 圧迫帯の幅によって測定値は変化しない。
3. 触診法では上腕動脈の脈拍を触知しながら測定する。
4. 聴診法は触診法よりも測定値がやや低い。
5. 減圧時に血管音が初めて聞こえた点が収縮期血圧である。